

## 会員へのアンケート結果について(中間報告)

2022年6月に当会は設立10周年を迎えますが、それに向けて、会会の今後のあり方を検討するために、本年(2021年)3月28日付にて会員(当事者、家族及びそれ以外)に対して、郵送又はHPを通じてアンケートへの回答をお願いしました。

「人が集うことがリスク」となるコロナ禍において、従前の「日常的な活動」が大きく停滞した2020年度でした。然しながら、会のあり方を検討するためにはちょうどよい機会であると捉えて、我々のこれまでの活動を振り返るとともに、今後の方向性を考えることとした次第です。

以下に中間報告として、アンケートのまとめを掲載いたします。

### 1. 内容

入会して良かったこと、現在の困りごと、最近のオンライン行事について、今後会に望むこと、自分の特技等で会に役立てることが出来るもの等をお伺いしました。

### 2. 回答状況

4月末までの回答/返送をお願いしましたが、5月末時点で、郵送による回答は15件、HP宛の回答は8件でした。(内訳は下表の通り。単位：人)

区分	郵送	HP	計	登録会員数(※)	回答率
当事者	7	4	11	34	32.4%
家族	6	2	8	19	42.1%
それ以外	2	2	4	48	8.3%
計	15	8	23	101	22.8%

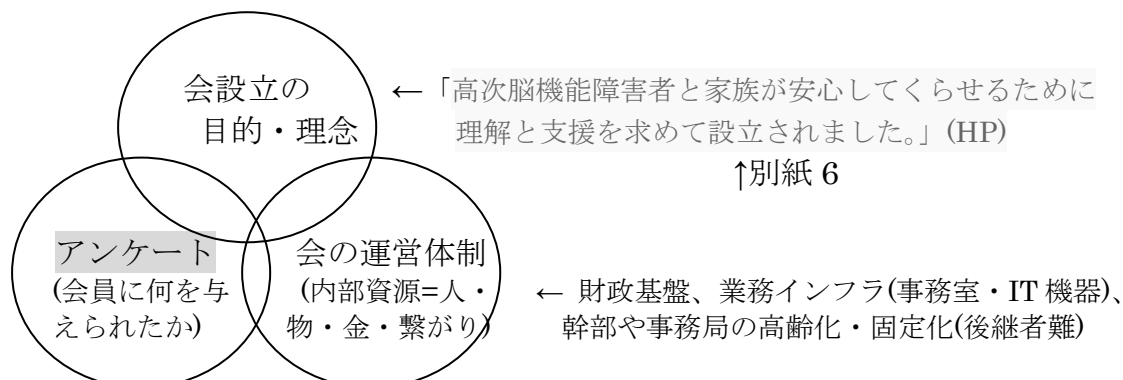
(※)「登録会員数」は2021年1月現在

平均回答率は22.8%と低いものの、家族会員は42.1%、当事者会員は32.4%と、概ね想定に近い回答を得る事が出来ました。

### 3. アンケートの位置づけ

会員アンケートは会会の今後のあり方を検討するための重要な材料ではありますが、下図に示す3要素から考えていく必要があると考えております。

つまり「会設立の目的・理念」や「会の運営体制(内部資源)」からも検討してまいります。(勿論、社会・経済の動向も前提となる重要な要素ではありますが、ここでは「2022年度からばちばち従前のような日常的な活動が出来る」と想定いたします。)



↑入会して良かったこと、  
今後会に望むこと、現在の困りごと

## 4. アンケート結果の概要

### 4-1 入会して良かったこと ← 会員に対してどんな貢献ができたか

#### (1) 当事者(会員)に対して

- ・ 行政手続き等含む各種アドバイス
- ・ 交流による繋がりや仲間ができた、疎外感の解消
- ・ 会活動参加による障害の改善
- ・ 就職
- ・ 最初の頃はとても楽しかった、自分だけではないんだと自信が持てた

#### (2) 家族(会員)に対して

- ・ 行政手続き等含む各種アドバイスや障害に関する情報
- ・ 医師等の紹介
- ・ 相談会による現状や回復の状態の理解
- ・ 当事者や家族の体験談により気持ちの共有ができ、精神的に軽くなった  
家族の話聞いて頂き心が救われた
- ・ 当事者が就職できた
- ・ 入会して良かったと思えることは浮かばない
- ・ 当事者が回復していく程に、会に参加する意味を見失って来つつある。  
(入会当初は大いに学ぶことも多く、助けて頂く事も多く、感謝の気持ちでいっぱいでした。)

### 4-2 今後会に望むこと ← 会員は今後何を期待しているか

#### (1) 当事者(会員)から

- ・ 健常者や若い人との交流
- ・ 行政(小金井市)との太い繋がり
- ・ 発症間もない当事者、家族に寄り添う
- ・ 症状や高齢により、メールやオンラインについていけない人もいる)

#### (2) 家族(会員)から

- ・ 当事者が日常生活で自立できるような誘導
- ・ 当事者会員の拡大、若い家族会員の拡大(組織の土台を強くする)  
⇒ B型作業所への PR(高次脳の方が何割かいる)
- ・ 活動内容にマンネリ化
- ・ (現状は)難しい

#### (3) 非会員から

- ・ より系統だった研修会

### 4-3: 現在の困りごと

#### (1) 当事者(会員)から

- ・ 自分ではちゃんとやっていると感じていても、ハタから見ると間違っているというギャップ

- ・内面のパニックに困っている。  
たまに他者に対して怒りをぶつけることがある。後からとても後悔する。
- ・仕事、家庭など普通は良いのですが、トラブルになった時に昔みたいに説得できない。障害者という特別の人と見られるのがとても困る。同じ人としてやりあいたい。
- ・感情のコントロール
- ・頭痛
- ・片付け
- ・仕事や活躍ができないこと

## (2)家族(会員)から

- ・親亡き後の子供の事が心配
- ・自分に頼り切っている
- ・(本人が)飲酒のコントロールができない。  
昼間一人で在宅中に飲んでしまう。その都度話し合い納得するが数日後には再びの繰り返し。
- ・自分の体調がすぐれない
- ・グループホーム退所後の次の住居(入居先?)が見付からない

## 5. まとめ

(1)当事者・家族の意見は以下の3点に集約されます。

- ①発症の比較的初期段階において、当事者・家族とも、症状の理解や必要な行政手続き、或いは(必要に応じて)医療機関の紹介等の相談・対応に感謝されている。
- ②急性期を過ぎた段階以降、当事者・家族とも、他会員の話聞いて心が救われた、気持ちの共有ができた等の感想が述べられている。
- ③障害のステージに関わらず、「相談会」を通じて有益な助言や情報が得られたと評価されている。

(2)今後のあり方として、以下の論点があります。(番号は上記(1)に対応)

①⇒相談窓口的機能の拡充

顧問以外総じて専門性や当事者家族としての経験が少ないこと、並びに事務室設置に係る今後のあり方に左右される。必要な行政手続きについては本やマニュアル的なものが多数あると思われることから、それらの要約版を作成することもできそう。

②⇒こじんまりした規模の「交流会」及び家族の集まりとしての「茶和会」の実施  
参加人員数を追わず、“傾聴と共感”を旨とした原点回帰を大切にする。

③⇒相談会の継続

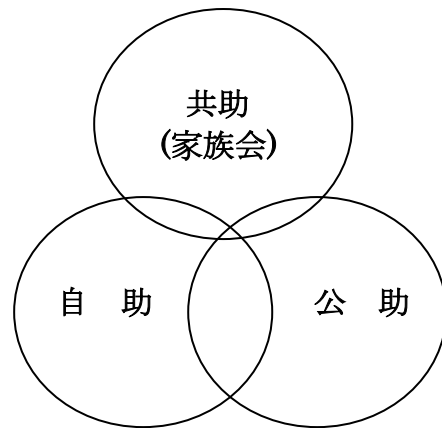
④その他 障害のステージにより、会員が入れ替わって良いのでは。  
勿論、会員に留まって頂くのは有難くうれしいことではあるが、会員と家族にとってベターな選択で良いのでは。

## 6. 今後の進め方

引続き理事会等において、年内を目途に今後の会のあり方を検討してまいります。  
前述 3. の通り、アンケートに加えて、「会設立の目的・理念」及び「会のインフラ

(内部の人的資源や財政基盤)」の視点を踏まえて議論いたします。

また、「当会のあり方を考えることは、「自助」・「公助」を踏まえた家族会としての「共助」がどうあるべきか、何をすべきか、何ができるかを考えることであると思っています。(下図参照)



以 上